

令和元年度

学校関係者評価報告書

令和2年12月

学校法人筑波研究学園
成田つくば航空専門学校

○令和元年度 学校関係者評価報告書について

成田つくば航空専門学校は、「工業分野」の専門課程の認可を受けた専修学校として、わが国の航空産業諸分野の中核を担う優れた人材を育成し社会の発展に寄与することを目的として運営されています。また、平成26年度に文部科学省から「職業実践専門課程」と認定された航空整備学科、およびグランドサポート学科では、航空分野の諸企業との密接な連携のもとに、「学校運営の適正化」および「教育内容の充実」が図られています。

本校では、平成25年4月に定めた「自己点検・評価規程」に従って、学校自己点検・評価委員会を設置し、「専修学校における学校評価ガイドライン」に沿って本校の運営および教育活動について自己点検・評価を実施し、真摯に学校評価に取り組み、現状の把握、課題及び今後の改善策を協議検討してまいりました。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の点検・評価について報告します。

1. 学校関係者評価委員会 実施日時・場所

令和2年12月9日(水) 14:00 ~ 16:00

成田つくば航空専門学校 E22会議室

2. 学校関係者評価実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○評価委員

渡辺浩一郎	公益社団法人 日本航空技術協会 事務局長
村田安弘	株式会社 JAL エンジニアリング 総務部 組織・人財グループ長
熊谷仁志	株式会社 IHI 航空・宇宙・防衛事業領域 瑞穂工場 武蔵総務部主査
日改正明	金属技研株式会社 千葉工場 工場長
渡邊 欽	株式会社 JAL グランドサービス 総務部 人財採用グループ長
水谷真也	株式会社インテックス ランプ事業部 業務部 教育安全課
寺田恵美子	取手市小堀地区 区長
吉田洋平	成田つくば航空専門学校 保護者代表
丹羽由紀子	成田つくば航空専門学校 保護者代表
今村吉宏	成田つくば航空専門学校 卒業生代表
古橋亮祐	成田つくば航空専門学校 卒業生代表

○学校関係

山本卓二	成田つくば航空専門学校 校長
春日由光	成田つくば航空専門学校 事務部長
久保嘉孝	成田つくば航空専門学校 航空整備学科長
鈴木義治	成田つくば航空専門学校 グランドサポート学科長
藤井伸一	成田つくば航空専門学校 教務部長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：令和元年度 学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 自己評価は、以下の10項目を実施しました。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

- (1) 次の4段階(*)をもとに「学校自己点検・評価報告書」の各評価項目の平均点を小数点以下第1位までを評価。
(*) 4段階：適切-4、ほぼ適切-3、やや不適切-2、不適切-1
- (2) 委員会で出された意見や質疑、提案事項を記載。

5. その他

令和元年度 学校自己点検・評価報告書を併せご覧ください。

評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目標

評価 4.0

- ・ 項目1、教育理念の中に、「全人教育を旨とし、実践と反省と改善を継続し、自発力ある人材を育成する」とあるが、航空機整備の技術に関わる以外で人間力を高めるカリキュラム等は何か実施されているか？
～整備学科・グランドサポート学科共にホームルーム/一般教養を設けている。ホームルームは就職指導と合わせて実施しており、学生生活での一般的指導を行っている他に社会的な問題も取り上げている。又、航空英語の授業の中で自発力、コミュニケーション能力をアップさせるよう指導している。両学科共に座学と実技の両方でコミュニケーション能力が高められるよう取り組んでいる。
- ・ 項目2で「航空業界を担うグローバルな人材の育成を教育目標としている」とあるが、難しい課題であると理解している。今後グローバルな世の中になることは間違いなく、企業側としてもグランドハンドリングの技術以外で、そのような視点を持った人材を採用して行きたい。
- ・ その他の項目は、学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(2) 学校運営

評価 4.0

- ・ 学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(3) 教育活動

評価 3. 9

- ・ 項目 7、「授業評価の実施・評価体制はあるか」に関し、「昨年アンケートは実施出来なかった」とあるが、以前に実施したものでどのように取り込みを行ったか、～先生方に対してどのような受け止め方をされているか？客観的な意見を基にフォローアップさせることを主眼に実施。具体的には、声が小さい、黒板を利用していない（授業のポイントは黒板に書いてほしい）、授業中に専門用語が多い、分かりづらい等の指摘を基に改善を行った。
- ・ グランドハンドリング関連の機材設備は整っているのに、安全に関して一歩踏み込んだ危険性への教育をしては如何か。コンテナ開閉時に指を挟み、休業を伴う怪我を負う事例、ハイリフトローダー(H/L)を動かす時に、どのくらいオーバーラン（振り幅が大きい）するのか？等。
～以前から H/L を運転する時のオーバーラン等の注意点については授業で実施している。昔と違って今の学生は安全に対する感受性が薄れて来ている為に最初から教えている。又、授業の中で以前にも増して危険予知訓練を実施している。イラストを使った訓練で、危険を予知できる体制に持っていけるよう常日頃指導している。今の学生は、以前考えていた時よりは安全に対する心構えが出来ていると考える。
- ・ その他の項目は、学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(4) 学修成果

評価 3. 8

- ・ 項目 4 項、5 項に対する改善方策「学科では、卒業生の勤務先企業等と交流する機会を設け、卒業生の活躍状況、採用側からの評価を把握することに努めていく」とあるが、昨年度の勤務先企業との交流実績は？
～昨年度（令和元年度）卒業生勤務先企業との交流実績は、航空整備学科 3 回、グラウンドサポート学科 3 回であった。
- ・ 項目 1 「就職率」に関連して、内定業種について補足説明を実施。
～就職内定率は 100%（就職希望対象者 56 名）、主な就職先（業種別）は以下の通り。

学科	業種	人数
航空整備学科 (37 名)	機体整備	10 名
	部品整備・製造	12 名
	給油	5 名
	非破壊検査	1 名
	船舶(エンジン)	2 名
	その他	7 名

学科	業種	人数
グラウンドサポート学科 (19 名)	グラウンドハンドリング	16 名
	航空貨物	3 名

(5) 学生支援

評価 3. 8

- ・ 学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(6) 教育環境

評価 3. 7

- ・ 項目 2 項、海外研修に関し、「海外研修については学科として特に必要とは考えていない」とあるが、英語能力の向上について工夫した取組があれば紹介を願う。
～両学科共に、外国人講師による英語授業（英会話）をカリキュラムとして設けている。整備学科に於いては整備マニュアルが英語なので、それらを読解できるように

授業を設けている。教本は日本航空技術協会発行の教本（航空機整備英語マニュアル）を利用して、能力向上に向けて学生個人のやる気を引き出すことを主眼に取り組んでいる。

～海外研修については、以前平成23年頃まで海外研修（シアトル等）をしていたと聞いている。今後チャンスがあれば学校として検討したい。

- ・ 項目3項、防災体制の整備に関し、防災訓練を年3回実施していると記載されている。ここは地形的に土手を挟んで利根川があり低くなっており、この地区の避難場所としてこの学校の屋上指定されている。避難場所としては不便なため、市役所と協議して我孫子湖北台近隣センターを避難場所にした。寝泊りが出来て、食事も我孫子市と同様に提供してもらえ。災害はいつ来るか分からない。勉強している時に来るかも知れないので学生にも周知をお願いしたい。
- ・ 補足説明：項目1「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか」に対する状況と課題の1項目で、“現在は基本技術Ⅱの指定養成施設認定に向けてテストコースを受験中である”と記載したが、テストコースが終了し12月15日付けで認定された。

(7) 学生の受け入れ募集 評価 4.0

- ・ 項目1、高校生の募集活動に於いて、企業と連携して見学会を実施しているが昨年度の実績は？
～高校生対象の見学会はJALECの一社のみ。一昨年まではインテックス社で実施したが、昨年度は未実施。
- ・ 学生募集に関し、学校から公式に発信している動画で動画配信サービスを利用したものが少ない。ホームページよりもユーチューブ等大手の配信サービスを見る人が多く、ライブ感のある配信が多くなっている。この様な方式の広報に力を入れては如何か？
～学校のホームページに動画が掲載されているが、ツイッターでは動画の生配信をしたことはある。募集活動での動画配信の活用につき、広報担当者で検討する。
- ・ その他の項目は、学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(8) 財務 評価 3.8

- ・ 学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(9) 法令等の遵守 評価 3.8

- ・ 学校自己点検・評価報告書記載の通り承認された。

(10) 社会貢献・地域貢献 評価 3.0

- ・ 項目2、学生のボランティア活動に関し、昨年は花火大会（取手市）後の清掃活動に学生さん15名程参加してもらった。奉仕活動に参加することで地域との連携が出来ると考える。若い人たちの人財の育成というのは、口で言ってもダメで、大人と一緒に指導しないとだめです。協力をお願いしたい。

以上